

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2017-197260

(P2017-197260A)

(43) 公開日 平成29年11月2日(2017.11.2)

(51) Int.Cl.	F 1	テーマコード (参考)
B 6 5 D 47/42 (2006.01)	B 6 5 D 47/42	3 E 0 1 4
B 6 5 D 83/00 (2006.01)	B 6 5 D 83/00	3 E 0 8 4

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 10 頁)

(21) 出願番号 特願2016-91568 (P2016-91568)
 (22) 出願日 平成28年4月28日 (2016. 4. 28)

(71) 出願人 000006909
 株式会社吉野工業所
 東京都江東区大島 3 丁目 2 番 6 号
 (74) 代理人 100186358
 弁理士 齋藤 信人
 (74) 代理人 100191145
 弁理士 佐野 整博
 (72) 発明者 當麻 徹
 東京都江東区大島 3 丁目 2 番 6 号 株式会
 社吉野工業所内
 F ターム (参考) 3E014 PA01 PA03 PB03 PC04 PE04
 PE14 PE17 PE25

最終頁に続く

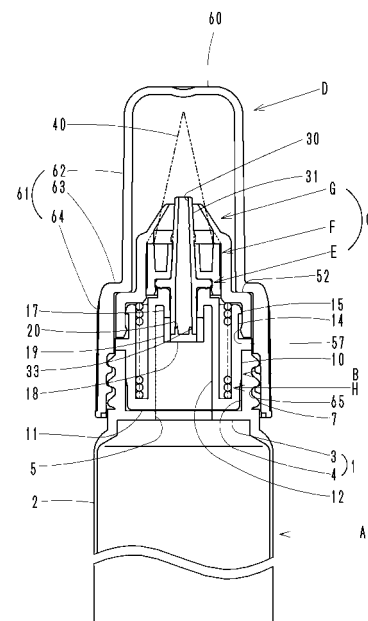
(54) 【発明の名称】 塗布容器

(57) 【要約】

【課題】 使用する際に、容器からカバーキャップを取り外すだけの 1 アクションで、中栓と塗布部材との流路を開口できる、塗布容器を提供すること。

【解決手段】 容器 A と、容器 A の口部 1 に取着された中栓 B と、中栓 B に装着された塗布部材 C と、塗布部材 C を覆うカバーキャップ D とを備える塗布容器であって、容器 A の口部 1 は、ネジ 7 が螺設された口筒部 4 を含み、中栓 B は、容器 A 内部に連通する流通孔 19 と、塗布部材 C を中栓 B から離隔する方向に付勢するスプリング H とを含み、塗布部材 C は、中栓 B の流通孔 19 を開閉する注出パイプ E を含み、カバーキャップ D は、口筒部 1 のネジ 7 に螺合するネジ 6 5 を含み、閉蓋時に、スプリング H の付勢力に抗して塗布部材 C を中栓 B に近接させることにより中栓 B の流通孔 19 を閉じることを特徴とする。

【選択図】 図 1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

容器と、容器の口部に取着された中栓と、中栓に装着された塗布部材と、塗布部材を覆うカバーキャップとを備える塗布容器であって、

容器の口部は、ネジが螺設された口筒部を含み、

中栓は、容器内部に連通する流通孔と、塗布部材を中栓から離隔する方向に付勢するスプリングとを含み、

塗布部材は、中栓の流通孔を開閉する注出パイプを含み、

カバーキャップは、口筒部のネジに螺合するネジを含み、閉蓋時に、スプリングの付勢力に抗して塗布部材を中栓に近接させることにより中栓の流通孔を閉じることを特徴とする塗布容器。

10

【請求項 2】

中栓は、容器の口筒部に嵌着される嵌着筒と、嵌着筒の下端から内方へ延びる下連結壁を介して立設される内筒とを有し、

スプリングは、嵌着筒と下連結壁と内筒とによって形成された環状溝に収容されることを特徴とする請求項 1 に記載の塗布容器。

【請求項 3】

中栓は、内筒の上端から内方へ延びる上連結壁を介して垂設され、注出パイプを案内する案内内筒と、案内内筒の下端に形成された底壁と、案内内筒に穿設された流通孔とを有することを特徴とする請求項 2 に記載の塗布容器。

20

【請求項 4】

塗布部材は、注出パイプを装着するとともに、塗布具を立設した塗布具保持体と、塗布具保持体を嵌挿する取付カバーとを含むことを特徴とする請求項 1～3 のいずれかに記載の塗布容器。

【請求項 5】

中栓は、取付カバーを摺動自在に案内する案内外筒と、案内外筒に形成された係止突条とを有し、

取付カバーは、カバーキャップの開蓋時に中栓の係止突条と係合する係止環を有することを特徴とする請求項 4 に記載の塗布容器。

【発明の詳細な説明】

30

【技術分野】

【0001】

本発明は、塗布容器、とくに、容器中の内容液を塗布するため、塗布部材を容器口部に取着した塗布容器に関するものである。

【背景技術】

【0002】

従来、チューブ容器の口部に塗布部材を取着した塗布容器において、容器を押圧することによって内容液を注出しながら塗布部材で塗布するようにしていた。

しかし、塗布容器を使用しないときは、塗布部材にカバーキャップを被せておく程度であったため、誤って容器を押圧すると、内容液が塗布部材からカバーキャップ内に注出して溜まったり、カバーキャップを押し開けて内容液が注出するという問題があった。

40

【0003】

このため、容器の口部に取着した中栓に流通孔を穿孔し、塗布部材に流通孔を開閉する注出筒を設けることにより、塗布部材を装着した取付カバーを、一定範囲で廻動することで、中栓と塗布部材との間の流路を開閉する塗布容器が従来から知られている。（例えば、特許文献 1 参照）

【先行技術文献】

【特許文献】

【0004】

【特許文献 1】特許第 4 2 1 9 7 6 8 号公報

50

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

しかしながら、上記特許文献1記載の塗布容器では、使用する際に、カバーキャップを取り外した後、取付カバーを廻動して中栓と塗布部材との間の流路を開口する必要がある、使用するまでに2アクションを要するため、塗布容器を使用する際に、手数がかかるという問題があった。

【0006】

本発明は、上記問題を解決することを課題とし、使用する際に、容器からカバーキャップを取り外すだけの1アクションで、中栓と塗布部材との流路を開口できる、塗布容器を提供することを目的とする。

10

【課題を解決するための手段】

【0007】

本発明は、上記の課題を解決するため、塗布容器として、容器と、容器の口部に装着された中栓と、中栓に装着された塗布部材と、塗布部材を覆うカバーキャップとを備える塗布容器であって、容器の口部は、ネジが螺設された口筒部を含み、中栓は、容器内部に連通する流通孔と、塗布部材を中栓から離隔する方向に付勢するスプリングとを含み、塗布部材は、中栓の流通孔を開閉する注出パイプを含み、カバーキャップは、口筒部のネジに螺合するネジを含み、閉蓋時に、スプリングの付勢力に抗して塗布部材を中栓に近接させることにより中栓の流通孔を閉じることを特徴とする構成を採用する。

20

【0008】

中栓の具体的実施形態として、中栓は、容器の口筒部に嵌着される嵌着筒と、嵌着筒の下端から内方へ延びる下連結壁を介して立設される内筒とを有し、スプリングは、嵌着筒と下連結壁と内筒とによって形成された環状溝に収容されることを特徴とする構成を採用し、さらに、中栓は、内筒の上端から内方へ延びる上連結壁を介して垂設され、注出パイプを案内する案内内筒と、案内内筒の下端に形成された底壁と、案内内筒に穿設された流通孔とを有することを特徴とする構成を採用する。

また、塗布部材の具体的実施形態として、塗布部材は、注出パイプを装着するとともに、塗布具を立設した塗布具保持体と、塗布具保持体を嵌挿する取付カバーとを含むことを特徴とする構成を採用する。

30

また、中栓の別実施形態として、中栓は、取付カバーを摺動自在に案内する案内外筒と、案内外筒に形成された係止突条とを有し、取付カバーは、カバーキャップの開蓋時に中栓の係止突条と係合する係止環を有することを特徴とする構成を採用する。

【発明の効果】

【0009】

本発明の塗布容器は、上記構成を採用することにより、使用する際に、カバーキャップを廻動して取り外すと、カバーキャップの上昇に伴って、カバーキャップによって押さ込まれていた塗布部材がスプリングで押し上げられ、中栓の流通孔を開口することができ、容器からカバーキャップを取り外すだけの1アクションで、容器内の内容液を注出して塗布することができる。

40

また、本発明の塗布容器は、スプリングが中栓の嵌着筒と下連結壁と内筒とによって形成された環状溝に収容されることにより、容器内の内容液がスプリングに触れることなく、中栓の流通孔から注出パイプに流入させることができる。

【図面の簡単な説明】

【0010】

【図1】本発明の実施例である塗布容器のカバーキャップを閉じた状態を示す側面断面図である。

【図2】本発明の実施例である塗布容器の構成パーツを示す図であり、(a)はカバーキャップの半断面図、(b)は容器の半断面図である。

【図3】本発明の実施例である塗布容器の構成パーツを示す図であり、(a)はスプリン

50

グの側面図、(b)は中栓の半断面図、(c)は中栓の下面図である。

【図4】本発明の実施例である塗布容器の塗布部材の組立状態を示す半断面図である。

【図5】本発明の実施例である塗布容器のカバーキャップを外した状態を示す側面断面図である。

【発明を実施するための形態】

【0011】

次に、本発明の塗布容器について、実施例を示した図面を参照して説明する。

【実施例】

【0012】

図1において、Aは容器、Bは容器Aに取着された中栓、Cは中栓Bに対してスプリングHを介して摺動自在に装着された塗布部材、Dは塗布部材Cを覆うカバーキャップである。

10

【0013】

図1および2(b)に示すように、容器Aは、チューブ容器であって、口部1と押圧変形可能な胴部2とから構成されている。

口部1は、隔壁3と口筒部4とを含み、隔壁3は、中央に開口5が設けられている。

口筒部4は、上端をリング状の筒端面6とし、その下方外周に、雄ネジ7が螺設されている。

【0014】

図3(b)および(c)に示すように、中栓Bは、容器Aの口筒部4の内周に嵌着される嵌着筒10と、嵌着筒10の内周下端部から内方へ延びるリング状の下連結壁11を介して立設される内筒12とを備えている。

20

嵌着筒10の外周上端部には、フランジ13が設けられ、その上方には、案内外筒14が立設され、案内外筒14の外周上端部には、係止突条15が形成されている。

【0015】

内筒12には、内周上端部から内方に延びるリング状の上連結壁16を介して垂設される案内内筒17が形成され、案内内筒17の内周下端部は、底壁18が形成されている。

案内内筒17の下方には、等間隔に複数の流通孔19が穿設され、底壁18には、案内内筒17の内周から一定の距離を隔てて係止リング20が立設されている。

案内内筒17の上端部には、内周にシール突条21が形成された注出パイプ受け筒22が立設されている。

30

【0016】

図1に示すように、中栓Bの嵌着筒10と下連結壁11と内筒12とによって形成された環状溝には、スプリングHが収容されるようになっている。

【0017】

図4に示すように、塗布部材Cは、注出パイプEと、塗布具保持体Fと、取付カバーGとから構成されている。

【0018】

注出パイプEは、注出孔30を穿孔した筒体31と、筒体31の外周中間部に突設された取付フランジ32を備えている。

40

筒体31の下端は、中栓Bの案内内筒17の内周下部と、係止リング20の間に嵌挿される弁筒33となっており、取付フランジ32の周縁には突出環34が突設され、取付フランジ32の下面には膨出環35が設けられている。

さらに、筒体31の外周には、取付フランジ32よりも上方に、抜け止め環36が突設されている。

【0019】

塗布具保持体Fは、本実施例では、塗布具を刷毛40としたものであり、円盤状の刷毛保持部41と、刷毛保持部41の周縁に沿って垂設された注出パイプ保持部42とから構成されている。

刷毛保持部41の中央には、注出パイプEの筒体31を嵌挿する挿入孔43が穿設され

50

、挿入孔 4 3 の周囲の上面には、リング状の刷毛保持孔 4 4 が穿設され、刷毛保持孔 4 4 には、略円錐状に刷毛 4 0 が植設されている。

【0020】

注出パイプ保持部 4 2 の内周下端部には、取付フランジ 3 2 周縁の突出環 3 4 の下面に係合する膨出環 4 5 が設けられ、外周下端部は、突出環 4 6 となっている。

さらに、刷毛保持部 4 1 の外周には、軸方向に回り止め外歯 4 7 が刻設されている。

【0021】

取付カバー G は、上壁 5 0 を設けた上部筒壁 5 1 と、上部筒壁 5 1 下端から外方に延設されたカバー段部 5 2 と、カバー段部 5 2 の外縁から垂設された下部筒壁 5 3 とを備えている。

上壁 5 0 には、刷毛 4 0 を収束するため、下端を円形、上端を楕円形として、下端より上端の開口面積を狭くした刷毛収束筒 5 4 が、上壁 5 0 内周縁に沿って立設されている。

本実施例では、刷毛収束筒 5 4 の上端は、楕円形としているが、円形でも構わない。

【0022】

上部筒壁 5 1 の内周下端部には、膨出環 5 5 が設けられ、膨出環 5 5 の上方には、軸方向に回り止め内歯 5 6 が刻設されている。

下部筒壁 5 3 の内周下端部には、取付カバー G の上昇時に、中栓 B の係止突条 1 5 と係合する係止環 5 7 が設けられている。

【0023】

図 2 (a) に示すように、カバーキャップ D は、頂壁 6 0 と、頂壁 6 0 の周縁から垂設された側周壁 6 1 とから構成され、側周壁 6 1 は、上部側周壁 6 2 と、上部側周壁 6 2 の下端から外方に延設されたキャップ段部 6 3 と、キャップ段部 6 3 の外縁から垂設された下部側周壁 6 4 とを備えている。

下部側周壁 6 4 の内周には、口筒部 4 の雄ネジ 7 と螺合する雌ネジ 6 5 が螺設されている。

【0024】

次に、本塗布容器の組立について説明する。

まず、塗布部材 C の組立は、図 4 に示すように、塗布具保持体 F の下方から注出パイプ E の筒体 3 1 を嵌挿して、刷毛保持部 4 1 の下面を取付フランジ 3 2 の上面と当接させ、注出パイプ保持部 4 2 内周下端部の膨出環 4 5 を取付フランジ 3 2 周縁の突出環 3 4 の下端縁と係合させるとともに、挿入孔 4 3 の上端を抜け止め環 3 6 の下端縁と係合させて、注出パイプ E と塗布具保持体 F とを結合させる。

【0025】

次いで、注出パイプ E と結合させた塗布具保持体 F を取付カバー G の下方から嵌挿し、刷毛 4 0 を刷毛収束筒 5 4 で収束して上昇させ、刷毛保持部 4 1 外周の回り止め外歯 4 7 を上部筒壁 5 1 内周の回り止め内歯 5 6 と噛み合わせながら、塗布具保持体 F の下端の突出環 4 6 を上部筒壁 5 1 内周の膨出環 5 5 を乗り越え上昇させると、膨出環 5 5 が突出環 4 6 の下端縁に係合して、注出パイプ E と結合させた塗布具保持体 F を取付カバー G と一体化させる。

【0026】

次いで、組立が完了した塗布部材 C をスプリング H を介して中栓 B に装着させるには、中栓 B の嵌着筒 1 0 と下連結壁 1 1 と内筒 1 2 とによって形成された環状溝にスプリング H の下部を挿入した後、スプリング H の上方から塗布部材 C の取付カバー G を被せて、スプリング H を圧縮しながら、中栓 B の案内外筒 1 4 に取付カバー G の下部筒壁 5 3 内周下端部の係止環 5 7 が案内外筒 1 4 外周上端部の係止突条 1 5 を乗り越えるまで押し込む。

これと同時に、注出パイプ E の筒体 3 1 下端の弁筒 3 3 は、中栓 B の案内内筒 1 7 内周に嵌挿される。

これにより、図 5 に示すように、塗布部材 C は、スプリング H によって上方に付勢されるが、取付カバー G の下部筒壁 5 3 の係止環 5 7 は、中栓 B の案内外筒 1 4 の係止突条 1 5 と係合することによって上昇が規制される。

10

20

30

40

50

【0027】

次いで、塗布部材Cと一体化された中栓Bを容器Aの口筒部4内周に嵌挿させ、中栓Bのフランジ13下面を口筒部4の筒端面6と当接させる。

【0028】

最後に、図1に示すように、塗布部材CにカバーキャップDを被せ、カバーキャップDの下部側周壁64を廻動して口筒部4に螺合させていくと、カバーキャップDは下降し、キャップ段部63下面が、カバー段部52上面と当接して、塗布部材CをスプリングHに抗して下降させ、カバーキャップDが最下降位置に達すると、注出パイプEの弁筒33下端が中栓Bの底壁18に当接し、注出パイプEの弁筒33と係止リング20とが係合して流通孔19を閉鎖し、注出孔30が塞がれることになる。

10

【0029】

次に、本塗布容器の使用態様と作用効果について説明する。

本実施例では、内容液として、リップグロス、口紅、その他の化粧品、薬品等が容器内に収納され、化粧品、薬品等の塗布容器として用いられている。

【0030】

使用にあたっては、図1の状態から、カバーキャップDを開蓋するために廻動すると、カバーキャップDの上昇に伴って、キャップ段部63によって押さえ込まれていた塗布部材Cの取付カバーGがスプリングHによって上方に押し上げられる。

最終的には、取付カバーGは、下部筒壁53の係止環57が中栓Bの案内外筒14の係止突条15と係合して、上昇が阻止される。

20

【0031】

取付カバーGの上昇と同時に、注出パイプEも筒体31が中栓Bの注出パイプ受け筒22のシール突条21と摺接しながら、案内内筒17に沿って上昇する。

注出パイプEの上昇に伴って、それまで弁筒33と係止リング20との係合によって閉じられていた案内内筒17の流通孔19が開口され、容器A内部と注出パイプEの注出孔30が連通されることにより、容器Aの胴部2を押圧すると、内容液を刷毛40に注出することができる。

すなわち、容器AからカバーキャップDを廻動して取り外すだけの1アクションで、容器A内の内容液を塗布具である刷毛40に注出して塗布することができる。

【0032】

刷毛40を所望する被塗布面に押し当て、動かしていくと、所望する塗布範囲に内容液を塗布することができる。

30

塗布が終わって使用しないときには、カバーキャップDを廻動して閉じると、中栓Bの流通孔19が閉じられることにより、誤って容器の胴部2を押圧しても、内容液が中栓Bから注出パイプEに流出することがない。

【0033】

また、スプリングHは、中栓Bの内筒12によって内容液の流路から隔離され、嵌着筒10と下連結壁11と内筒12とによって形成された環状溝に収容されることにより、容器A内の内容液がスプリングHに触れることなく、中栓Bの流通孔19から注出パイプEに流入させることができる。

40

【0034】

本実施例では、塗布具として刷毛を採用しているが、刷毛に換えて、スポンジ、またはフェルトなど多孔性塗布具を用いることもできる。

また、本実施例では、容器としてチューブ容器を採用しているが、通常のスクイズ容器、その他のものであっても構わない。

【産業上の利用可能性】

【0035】

本発明は、内容液として、リップグロス、口紅、その他の化粧品、薬品等が容器内に収納され、化粧品、薬品等の塗布容器として用いられるが、その他にも、糊、接着剤、塗料その他粘性液の塗布容器としても利用できる。

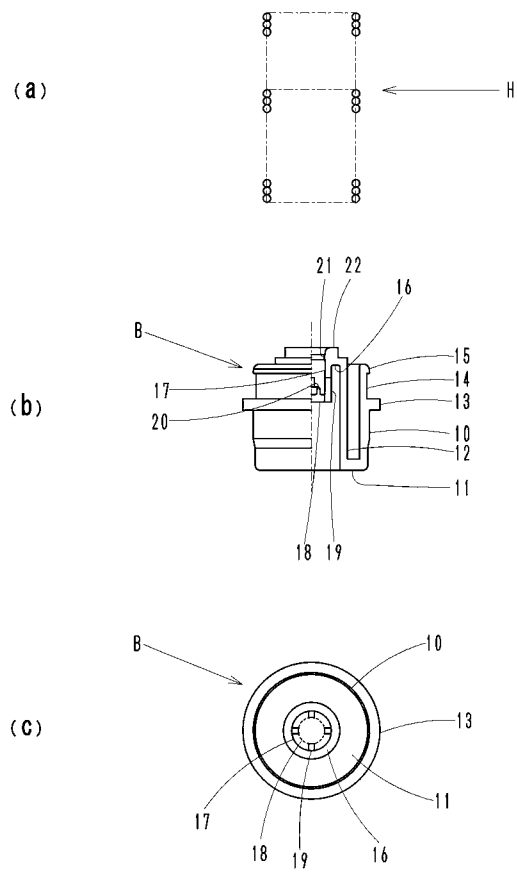
50

【符号の説明】

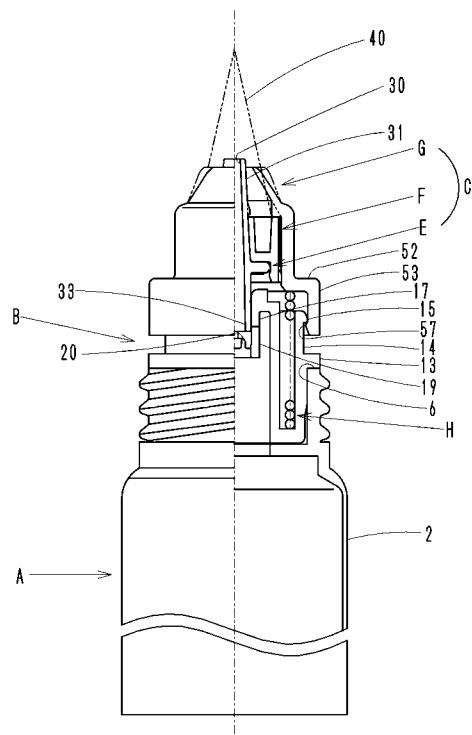
【0036】

A	容器	
B	中栓	
C	塗布部材	
D	カバーキャップ	
E	注出パイプ	
F	塗布具保持体	
G	取付カバー	
H	スプリング	10
1	口部	
2	胴部	
3	隔壁	
4	口筒部	
5	開口	
6	筒端面	
7	雄ネジ	
10	嵌着筒	
11	下連結壁	
12	内筒	20
13	フランジ	
14	案内外筒	
15	係止突条	
16	上連結壁	
17	案内内筒	
18	底壁	
19	流通孔	
20	係止リング	
21	シール突条	
22	注出パイプ受け筒	30
30	注出孔	
31	筒体	
32	取付フランジ	
33	弁筒	
34	突出環	
35	膨出環	
36	抜け止め環	
40	刷毛	
41	刷毛保持部	
42	注出パイプ保持部	40
43	挿入孔	
44	刷毛保持孔	
45	膨出環	
46	突出環	
47	回り止め外歯	
50	上壁	
51	上部筒壁	
52	カバー段部	
53	下部筒壁	
54	刷毛収束筒	50

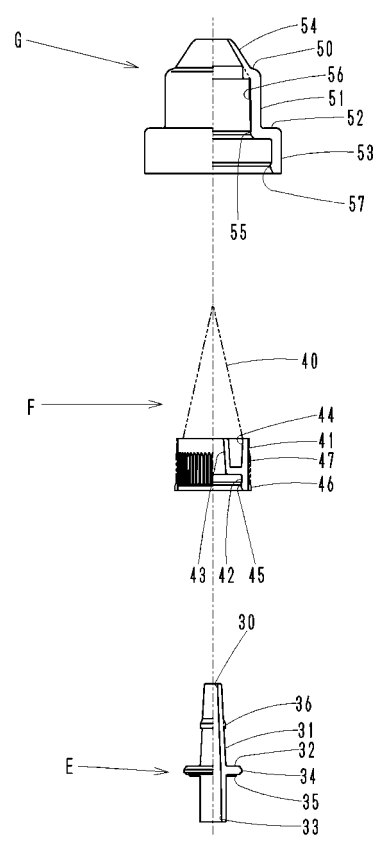
【図 3】



【図 5】



【図 4】



フロントページの続き

Fターム(参考) 3E084 AA03 AA12 AB01 AB05 AB09 BA02 BA03 CA01 CB02 DA01
DB12 DB18 FA09 FB01 GA01 GB01 KB01 LA17 LB02 LB07
LC01 LD02 LG01 LG02